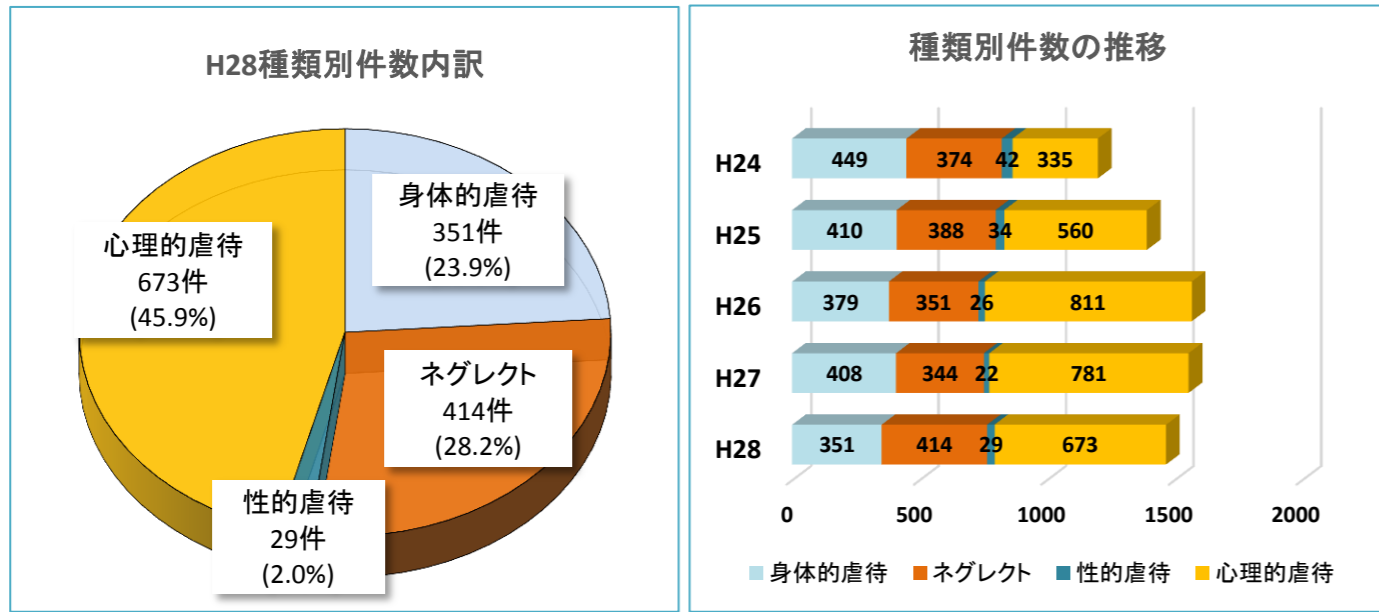
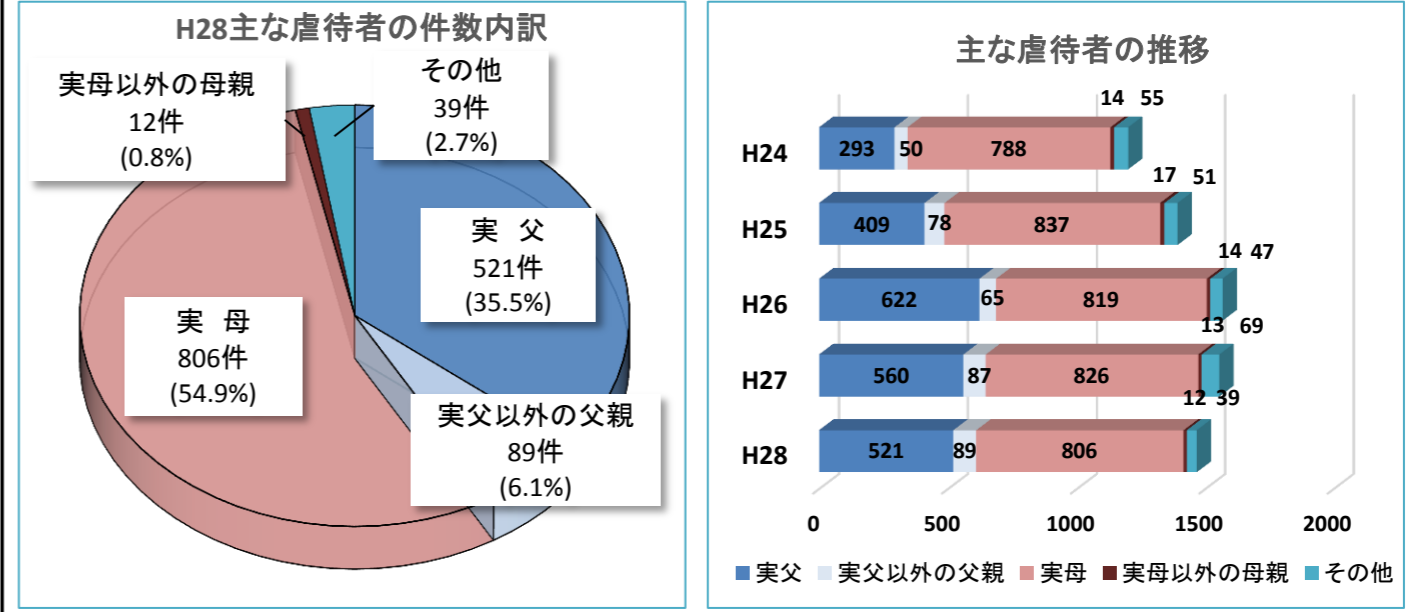


虐待の種類



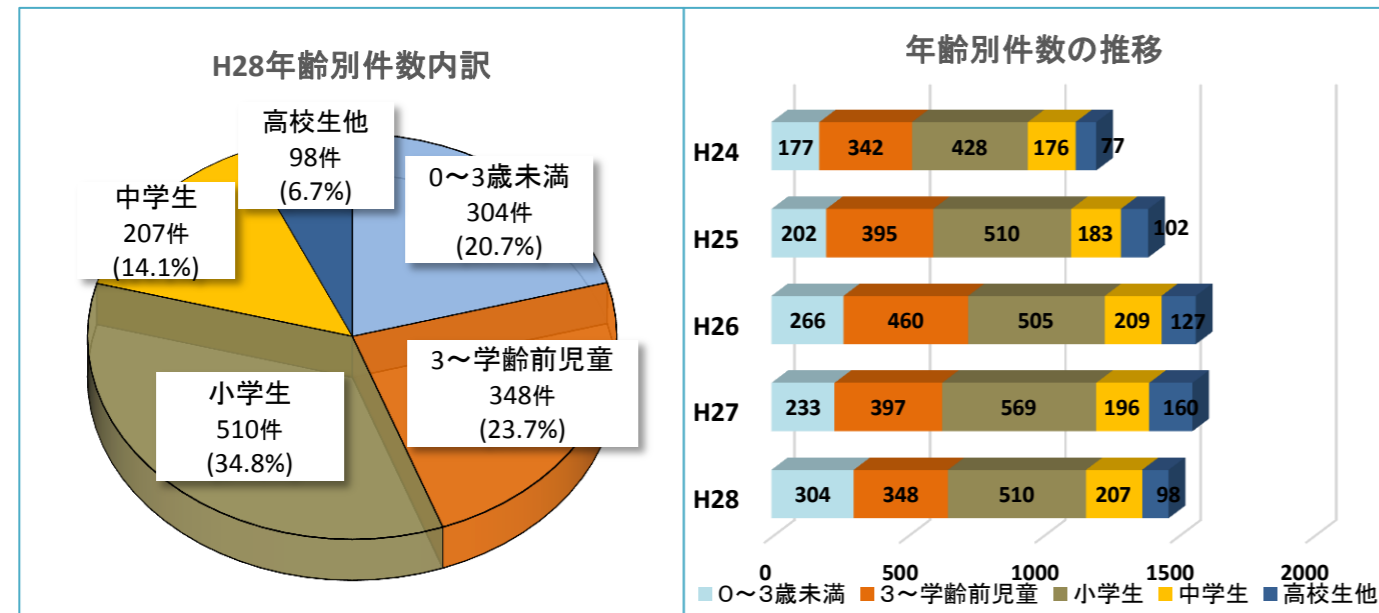
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比較して「心理的虐待」が種類別件数の約半数(46%)を占める状況に変化はないが、「ネグレクト」が70件増(20.3%増)となり、「ネグレクト」の件数が「身体的虐待」の件数を上回っている。

主な虐待者



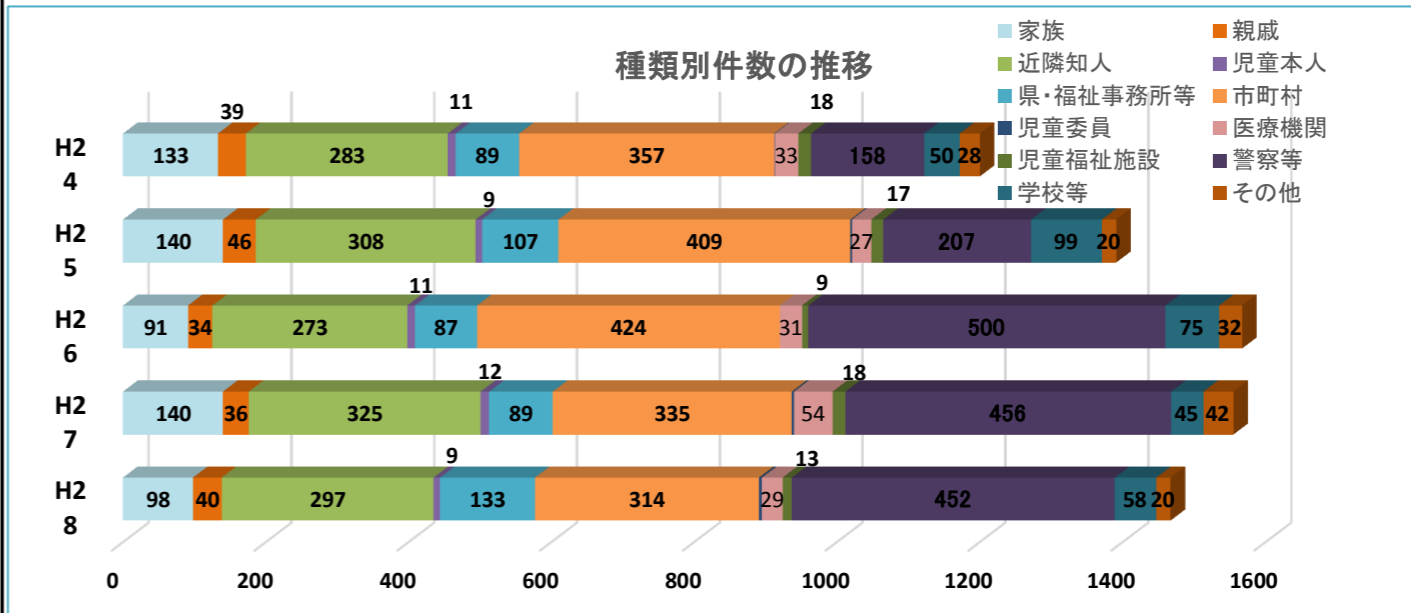
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。前年度と比べて割合に大きな変化はなく、「実親」のうち「実母」が占める割合が最も多い。

被虐待児の年齢



0歳～就学前の児童が全体の45%を占める。前年度と比べ、「3歳～就学前」「小学生」「高校生」の件数が減少している一方で、「0歳～3歳未満」の児童が71件増(30.5%増)となり、増加率が大きい。

虐待通告の経路



関係機関からの通告では「警察等」及び「市町村」が多く、関係機関以外では「近隣知人」による通告が多い。